

## 【事業実績】

### 1. 県内所在北米移民資料の調査およびアーカイブ化作業

#### (1) 北米移民研究と資料のデジタル発信

和歌山県立文書館は、旧紀三井寺村（現和歌山市紀三井寺）の出身の岩崎甚四郎（1848-1896）が渡米先から故郷に送った手紙類「岩崎家文書移民関係資料（和歌山県立文書館寄託）」と、旧田中村東大井（現紀の川市東大井）堂本家に伝来した「堂本家文書貿易資料」（和歌山県立文書館所蔵）のデジタル公開を和歌山県歴史資料アーカイブで行った。本事業にも関連し、パネル展示「手紙でたどる明治時代の移民生活～紀三井寺村岩崎家文書から～」(2023年6月9日～2024年2月7日)を実施。



和歌山県歴史資料アーカイブでの公開

パネル展示への感想「明治の県民の移民の苦労が手に取るようにわかり、よかったです！」「「一個人の移民の生涯をたどることができ、面白い」「近世から現代をつなぎ、紀州と世界をつなぐ壮大な企画が素晴らしい」

#### (2) 紀の川市移民資料の目録作成およびデジタル化

紀の川市は北米移民先駆けの地であり、地域住民の先祖の移民資料が多数残されてきた。和歌山大学紀州経済史文化史研究所は、この地域の自主研究団体と連携して調査してきた西家、梅田家、清水家、並松家、児玉家が保管していた資料約400点を整理・撮影し、記述説明の一部を翻訳した。まもなくオンライン公開する。資料整理には学生らも関わり、博物館としての教育機会創出になった。また資料の一部は10月から12月にかけて県人会や他館の関連展示に連動し、「移民と和歌山2023」と題した展示公開にも繋げた。こうした連携により、海外からの来場が多くあった。



(上) 大型資料のスキャンニング／(下・右)「移民と和歌山2023」での展示の様子



資料・展示を見たアメリカの研究者らの感想「こうした資料が和歌山に多く持ち帰られていることに驚く。移民として出た側の関心がよくわかる資料が貴重だ。」

#### (3) ヘンリー杉本旧蔵資料のデジタルアーカイブ化 (4) 和歌山県立近代美術館所蔵移民画家資料の整理

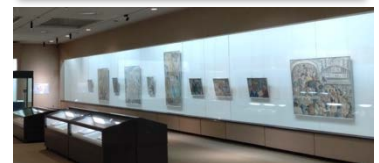
和歌山市立博物館が所蔵するヘンリー杉本旧蔵資料を撮影、目録化を実施。同様に和歌山県立近代美術館の渡米画家資料を整理し、デジタルアーカイブ化した。この移民研究に取り組み始めた時から視野に入れていたのが、2023年10月の第2回和歌山県人会世界大会と、それに関連した和歌山県立近代美術館の特別事業「トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」(2023年9月30日～11月30日)であるが、ここでは両館に加え、県内の移民作品・資料と研究の蓄積を公開することができた。また和歌山市立博物館でも「ヘンリー杉本の描いた日系人収容所」展を(2023年9月16日～10月19日)に開催した。



「移民と美術」での作品・資料公開と作家データベース



ヘンリー杉本旧蔵の収容所で制作された木彫



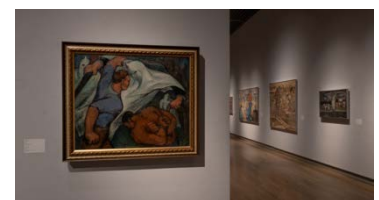
(上) 和歌山市立博物館での展示風景  
(下)「トランスボーダー」展の展示風景

### 2. 学校連携に基づく和歌山移民教育の実践と教材製作

#### (1) 学校教員による調査と研究

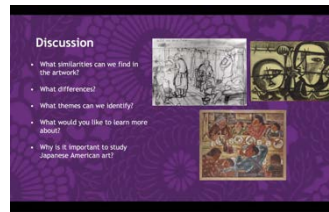
#### (2) ヘンリー杉本学習パンフレットの製作

歴史科教員の研究会を定期的に近代美術館で開催し、アメリカへ派遣する高校美術科の教員参加も得ながら、教科連携の可能性についてディスカッションを重ねた。当該教員は全米日系人博物館を訪問。題材の打ち合



わせや、強制収容所跡等、関連施設も調査した上で、ヘンリー杉本や移民史をテーマに5回の授業構成を計画、最終回に全米日系人博物館とのオンライン授業へと展開した。また昨年度派遣した小学校教員は、南加和歌山県人会とオンライン授業を実施、自主学习テーマに移民教育を盛り込み、クラス劇へと仕上げた。

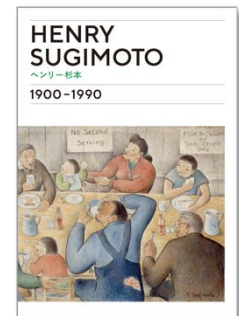
**高校教員のコメント**「学校教育の観点から美術や歴史文化と教科教育を繋げつつ、日系移民の歴史的な理解を活かすための貴重な示唆が得られた。」 **授業を受けた高校生の感想**「身近な土地での歴史を知ることによって親近感が湧き、関心を示せた。」「自分の考える視点が変わった気がする。」「歴史を振り返ることは知識を増やすだけでなく、より良い未来を創るための一つの方法であると思った」



全米日系人博物館への「バーチャル訪問」では、美術作品を通じた学習の方法を新たに立案。



歴史科教員たちの県大会では、アメリカに派遣した美術科教員が美術鑑賞と歴史教育への展開可能性について発表



ヘンリー杉本学習パンフ

### 3. 海外所在資料の調査とアーカイブ化作業

#### (1)「ターミナル・アイランダーズの会」イメージアーカイブ化

多くの漁業移民を輩出した太地町の歴史資料室は、彼らの子孫である太地人系クラブの協力を得て、個人の手元に残された写真資料の調査とスキャンニング作業によるイメージアーカイブの作成に取り組んだ。故郷での公開を目的に、10月から12月まで、太地町立石垣記念館で特別展「ターミナル・アイランド：魔法にかけられた島」を開催した。和歌山県人会世界大会の機会に帰郷した多くの人々が、父祖の地に住む親戚や友人たちと共に展示を見学する機会も創出した。



(左) 古写真を手に取る子孫  
(右) 石垣記念館での展示公開

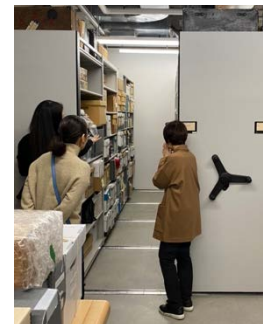
#### (2)和歌山ゆかりの日系美術作家に関する調査

#### (3)カナダ BC 州所在資料デジタルアーカイブ化への取り組み

全米日系人博物館のヘンリー杉本アーカイブを中心に調査し、その内容を記録する作業にあたった。現在、全米日系人博物館では一部のオンライン公開が行われている。カナダ BC 州においては日系ナショナルミュージアムなど移民関係施設を視察し、今後の調査に向けた関係づくりを行ったほか、和歌山県人会や関わりの深い BC 州の人々に聞き取りを行った。録音や筆記した内容について、承諾が得られ次第公開する。



(上) 全米日系人博物館のヘンリー杉本アーカイブ



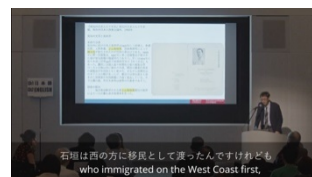
(右) カナダの日系ナショナルミュージアムで収蔵を調査



パネルディスカッションの様子



シンポジウム予稿集



バイリンガル字幕をつけた記録動画

### 4. 国際発信事業

#### (1)国際シンポジウムの実施

#### (2)ウェブサイト「移民と美術」における情報発信

国内外の研究者が集まるシンポジウムを実施。記録動画を撮影し、バイリンガル字幕をつけた動画を編集した。著作権の確認が済み次第、公開。またシンポジウム後、アメリカ側の登壇者には、和歌山との接点による原稿を寄稿いただいた。これらの情報は「移民と美術」(imin.momaw.jp)で公開。

シンポジウム参加者のアンケートより「移民を単に歴史的な事象としてだけでなく、芸術・文学といった具体的なものを通して見ることの面白さ、大切さを感じた。」「Facebook の宣伝がうまく機能していた」「すばらしい企画で感動した」「掘り起こす姿勢が良かった!」「展示・シンポジウムという形で歴史が継承されていくことを願う」